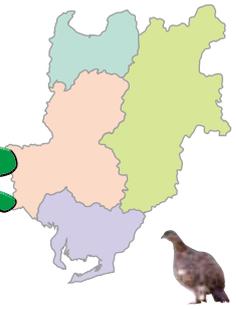




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

ニホンジカから
高山植物を守る取組



民有林と連携し
木材の供給体制を整備

平成25年度中部森林管理局事業概要を公表

公益重視の管理経営と、森林・林業の再生に向けた各種取組を推進します

(P 2～4 に関連記事)

| | | |
|------|------------------------|-------|
| 主な項目 | ○ 平成25年度中部森林管理局事業概要を公表 | P 2～4 |
| | ○ 各地からのたより | P 4～9 |
| | ○ シリーズ「森林官からの便り」 | P 9 |
| | ○ ご当地自慢 | P 10 |



五月二十七日・二十八日に局及び名古屋事務所において平成二十五年度中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行いました。

局管内の国有林の分布や資源状況等を踏まえ以下に主眼を置いて管理経営を行うこととしています。

一 公益重視の管理経営の一層の推進

国土保全・水源涵養・地球温暖化の防止等に果たす国有林野の役割や国民の期待等を踏まえ、森林の公益的機能の持続的発揮に取り組みます。

重点事項として四つの取組を推進します。

(一) 人工林の間伐等の森林整備の推進

山地災害の防止や水源涵養機能の発揮、地球温暖化防止等の公益的機能を維持・増進するため、人工林の間伐等の森林整備を着実に実施するとともに、長伐期化、針広混交林化など多様な森林づくりを推進します。

(二) 生物多様性保全の推進

奥地脊梁山地等を中心に森林生態系の生物多様性を保全するため、保護林等の適切な保全管理を進めるとともに、高山



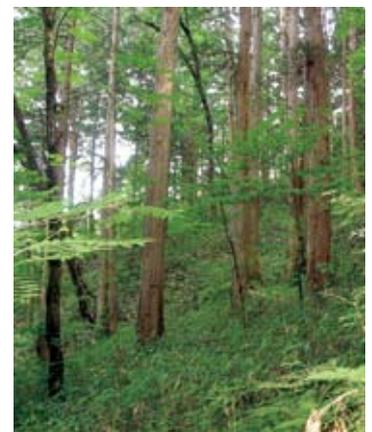
人工林間伐直後の様子

植物保護活動や、自然再生事業を実施します。

○木曽地方の温帯性針葉樹林の取扱いの検討

木曽地方では、木曽ヒノキを中心に良質な木材が産出され、古くから伝統的建造物や地場産業の用材として活用されてきました。また、温帯性針葉樹林がまつまつて自然度の高い状態を構成している地域は世界的に貴重なものとされています。

このため、木曽地方の温帯性針葉樹林の貴重性や地域振興に果たしてきた役割を踏まえ、保護林だけでなく多角的な視点からのゾーニングとその森林の取扱いを検討します。



木曽ヒノキ林 (木曽署)

○高山植物保護の実施

立山や御嶽山など管内百名山を中心とするグリーンサポートスタッフ(GSS)等による高山植物保護のための巡視を行います。また、山火事や廃棄物の不法投棄等の未然防止のため森林官等による国有林野巡視を行います。

○自然再生事業の実施

木曽駒ヶ岳や雲ノ平における高山植物の復元活動や長野県西部地震災害復旧地における自然再生事業を、NPOやボラ



木曽駒ヶ岳植生復元作業の様子

ンティア等と連携して実施します。

(三) 地域関係者や民有林との一層の連携
国民の方々や民有林関係者との双方の情報等の受発信により、透明性が高い国有林野の管理経営を進めます。

○森林計画の策定における地域に根ざした幅広い情報等の反映
森林計画の策定に当たり、国有林の森林資源や整備状況、利活用等に関する情報を広く提供するとともに、地域の方々の懇談会や現地見学会の開催、ホームページ等による意見募集を実施し、地域に根ざした幅広い情報や要請を森林計画に反映させるよう取り組みます。

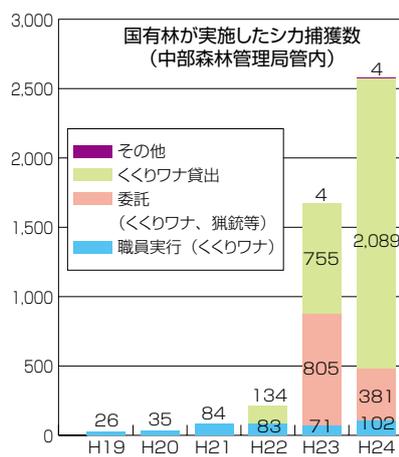
○信州大学農学部との連携・協力協定の締結

生物多様性保全等のための人材育成等を目的に、平成二十二年三月から信州大学農学部と三ヶ年の協定を締結していましたが、平成二十五年度からは連携・協力する分野を、生物多様性保全などの森林の公益的機能発揮のみならず、森林資源の有効利用、森林・林業の再生に向けた取組まで含めた新たな連携・協力協定として締結し、さらなる協力を推し進めます。

○二ホンジカ被害対策

二ホンジカによる被害の発生が懸念される地域において、捕獲による個体数調整等を、各地域のシカ被害対策協議会等との協働により実施します。また、農政とも連携した広域な個体数調整(囲いワ

ナや新たな捕獲網などの設置等)に取り組みます。



○(四) 安全・安心な国土基盤づくり

○治山事業の着実な推進
災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、集中豪雨や地震等により発生した緊急性の高い崩壊地等を平成二十四年度補正予算及び平成二十五年度予算により早期に復旧し、下流への被害を未然に防止します。

また、工事実施に当たっては生物多様性の配慮や木材利用を推進するとともに、地域の特性に応じた治山事業の検討を進めます。

○民有林直轄治山事業の実施

民有林においても、災害復旧事業の規模が大きい場合や特に高度な技術が必要とする場合は、県からの要請に応じて治山事業を実施します。

○災害発生時の迅速な状況把握・復旧対策の実施

大規模災害発生時は、民有林とも連携

して、ヘリコプターの活用等による、調査や応急対策、復旧計画の策定、復旧事業の実施など迅速に対応します。



生物多様性に配慮した溪間工

二 森林・林業の再生への貢献

森林・林業の再生に向け、間伐材等の生産コストの低減、木材の安定供給や需要開発、施業の大規模化の支援等の取組やこれらを担う人材の育成を推進します。

重点事項として七つの取組を推進します。

(一) 森林施業を通じて

得られる木材生産と供給

森林の公益的機能の発揮と森林・林業の再生を図るため、森林整備の結果得られる木材を林道等の路網整備等を通じて低コストで生産・販売し、木材の安定供給に努めます。



薪生産現場

(二) 低コスト作業システムの普及の定着

国有林の森林整備事業において実施する低コスト作業システムについて、広く普及・定着するため、関係者にその効果を広く普及します。



コンテナ苗

(三) 需要に即した木材供給の取組

木材需要の一層の拡大を図るため、需要情報を的確に把握し、需要に即した木材の規格(直径、長さ)を揃えて安定的に供給します。

また、人工林材のブランド化を進める取組を実施します。さらに、カラマツの軟弱地盤改良材としての利用の推進や安定供給、薪の需要と供給のマッチング等を図るセミナーの開催による薪の需要拡大等に取り組みます。

マルコウ マルコク 木曾ひのき

高 国 木曾ひのき

だんど サン

段戸 SAN

人工林ひのき材ブランド名
(上段が長野県木曾地域、
下段が愛知県段戸国有林)

(四) 林業事業者の育成

事業の発注に当たり、民間の林業事業者の創意工夫を活用できる総合評価落札方式を引き続き適用するとともに、中部森林管理局が発注する事業量の見通しに関する情報を積極的に発信します。

(五) 森林施業の集約化の推進

民有林と国有林が連携して、森林の有する多面的機能の持続的発揮、木材の安

定供給の推進等を目的に「森林整備推進協定」を締結し、民有林と国有林が一体となつて森林の整備や木材の共同販売等に取り組みます。

(六) 技術開発の推進

民有林経営や森林整備・保全に関する技術や手法の普及を念頭に、低コスト造林手法の開発や、国産材コンクリート型枠合板を用いた治山事業など、国有林の事業実行において実証等の取組を行います。

(七) 森林・林業技術者の育成

国有林のフィールドや技術力を活用し、森林・林業行政を支援する准フォレストラーや林業専攻道を適切に設計できる技術者を育成する研修を実施します。

また、大学等と連携し、将来の森林・林業技術者の育成に向けた取組も実施し



森林資源循環利用構想策定演習の様子

ます。さらに国有林の技術者が、県の指導普及員とともに、市町村の森林・林業行政の支援を行います。

三 山村地域の振興と森林の総合利用

森林整備や木材供給を通じた雇用創出等で山村地域の振興に貢献するとともに、地域との連携の下、国民の皆さんが森林とふれあう場等の整備・提供などを通じて、森林の保健・文化・教育的利用の推進に努めます。

重点事項として二つの取組を推進します。

(一) 森林とのふれあいの場の提供

自然休養林等のレクリエーションの森をより広く国民の方々に利用していただきながら、地域の振興に寄与するための取組を地元関係者と連携しながら実施します。



赤沢自然休養林での森林浴の様子

(二) 森林づくり活動等の

フィールド提供

森林づくりや社会貢献活動等の需要に応えるため、「ふれあいの森」や「遊々の森」など『国民参加の森林づくり』のためのフィールドを提供するとともに、林業体験活動などへの技術支援も行います。



「裏木曾古事の森」で下刈作業の様子

なお、平成二十五年度中部森林管理局事業概要につきましては、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。

URL

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/>

各地からのたより

信大農学部との連携と協力に

関する協定が締結される

〔企画調整課〕平成二十五年五月二十一日、信州大学農学部ゆりの木研修室において、「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定書」が、信大農学部中村学部長と鈴木局長との間で、調印・締結されました。

信大農学部との間では、平成二十二年三月に締結した「日本アルプス等の森林における生物多様性保全等のために必要な人材育成等に関する協定書」に基づき、これまで①研修講師の依頼②調査・技術開発として野生鳥獣による森林被害対策③各種会議での指導助言等の分野で連携を図ってきました。

今回の協定では、前協定の有効期間(三カ年)満了を機にその内容について発展的に見直し、生物多様性保全などの森林の公益的機能発揮にとどまらず、森林資源の有効利用、森林・林業の再生に向けた取組にまで連携・協力する分野を拡充させ、人と自然が共生する持続的社會の創造と発展、地域産業の活性化への貢献を目指しています。

特に、伐採と造林の一貫作業や、国産材型枠合板を用いた実証的作業などの技術開発や普及に関する具体的なテーマでの取組と学生による実習への国有林野の



中村農学部長と鈴木局長

フィールドの提供、大学演習林に隣接するフィールドの活用などの教育・研究活動への貢献を予定している点が、新たな特色となっています。

中村農学部長は調印式の挨拶の中で「大学の社会的責任が問われており、私たちとしても成果を地域社会と共有していきたい。安心して暮らせる活力ある持続可能な中山間地域の形成と再生に向けた取組を積極的に展開したい」と述べられました。

また、鈴木局長は「支援してもらいたい項目は多数ある。また、国有林には三つのアルプスをはじめ多様なフィールドがあり、森林・林業を担う学生たちの研究の場として活用してほしい」と挨拶されました。

各県で植樹祭が開催される 愛知県植樹祭

「愛知所」「エコ未来 つなげ緑のバトン



みどりの誓いの宣言の様子

パス」をテーマに、愛知県植樹祭が五月十一日（土）、豊川市制施行七十年を記念し豊川市総合体育館において盛大に開催されました。

式典で大村知事は二〇一四年十一月名古屋市内で開催予定のユネスコ世界会議や愛知県森林税などの話題に触れ、緑化意識を高め豊川市から緑の輪がさらに広がることを期待する」とあいさつ。山脇市長は「豊川市は山、川、海と豊かな自然に恵まれており、貴重な資源を次世代の子供たちに継承していこう」と呼びかけました。

緑化関係者表彰式では、緑化コンクールの入賞校、団体・個人功労者、緑化ボスター・標語などの入賞者がそれぞれ表彰されました。

最後に、市内小学校でつくる四つのみどりの少年団の代表が「緑豊か森づくり、まちづくりに参加し、緑を地球の財

産として将来へ引き継いでいきます」とみどりの誓いを宣言しました。
式典後に予定されていた記念植樹は雨で中止となりましたが、同時に開催された豊川市植樹祭は市代表者及び市民約三百五十名により行われました。

岐阜県みどりのまつり

【岐阜署】五月十七日（土）好天に恵まれ、岐阜県山県市大桑、四国山香りの森公園において、「未来へ続く恵みの森づくり」をキャッチフレーズに、山県市合併十周年記念イベントと併せ岐阜県・山県市等が主催する「第四十二回岐阜県みどりのまつり」が開催されました。

このイベントは、岐阜県内の各市町村を会場に毎年開催されてきたものであり、木の国・岐阜県を象徴する盛大な行



山元次長の記念植樹の様子

事となっています。

午前の記念植樹には、山元康則中部森林管理局次長が参加され、しだれ桜を地元山県市の小学生とともに和やかな会場の雰囲気なかで植樹をされました。

式典は、山県市立伊自良北小学校生徒徒約五十名による「伊自良十六拍子」（山県市重要無形民俗文化財）の唄や太鼓によるプロローグにより始まり、岐阜県内で活動する企業・団体による体験・展示コーナーでは、木のおもちやづくりや、杉材を使用した鍋敷き・コースターづくり、チェンソーアートの実演が行われ、飲食・販売コーナーで、地元の特産品である椎茸加工品、農産物の販売のほか、体験型など趣向を凝らしたブースが展示されました。



ゆるキャラとの記念撮影

会場には、ゆるキャラ？の「ミナモ」
「あすはちゃん」「どんぐりくん」、地元
山県市の「ナツチヨルくん」(山県市観
光親善大使。ナチュラル(自然)と果実
が実る「なつちよる」という言葉が由来
で命名。特産の柿をモチーフとしたキャ
ラクター)もイベントの進行に参加し、
会場を盛り上げていました。

とよま森の祭典

「富山署」第十四回とよま森の祭典が五
月二十四日滑川市柳原の「滑川市スポ
ーツ・健康の森公園」で置県百三十年、滑
川市制六十周年の記念行事の一環として
「未来へとつながればくのおおきなき」
をテーマに開催されました。

当日は、五月晴れの好天に恵まれ、花
とみどりの少年団員や農林漁業関係者ら
約二千名が参加し、滑川市の花木ツツジ



鈴木局長の記念植樹の様子



森のクラフト作りをする参加者

のほか、シダレザクラやヤマモミジなど
約一千本の植樹と古くから薬業が盛ん
だった土地柄から、ハーブや薬草約
三千四百株も植えられました。

また、同時に開催された「森とふれあ
いフェスティバル」では当署も参加し、
ブースに、木材の循環的利用や災害の防
止など森林のもつ公益的機能のPR用の
パネルの展示と森林クラフト教室を開催
したところ、花のしおりと森のクラフト
作りに順番待ちができるなど大盛況に終
えることができました。

「ふるさとの森づくり県民の集い」

長野県植樹祭

「技術普及課」五月二十五日(土)、佐
久市の白田総合運動公園にて、長野県
中部森林管理局、佐久市などが主催する
「平成二十五年ふるさとの森づくり県
民の集い(第六十四回長野県植樹祭)」が

盛大に開催されました。

当日は、地元のみどりの少年団をはじめ、
林業関係者や多数の協賛企業等およ
そ一千四百人が参加し、「美しき森のか
がやき 永遠に」を大会テーマに、佐久
市の市有林にカラマツのコンテナ苗等お
よそ三千本の植樹を行いました。また公
園内の修景伐作業も同時に行われ、五月
晴れの爽やかな陽気の下、多くの親子連
れが汗を流しました。



鈴木局長の挨拶の様子

このほか、今回の植樹祭では、平成
二十八年に長野県で開催が予定されてい
る全国植樹祭に向けたプレイベントとし
て、局長をはじめとした来賓の方々によ
るカラマツの種まきも行われました。こ
のカラマツは、長野県林業大学の生徒
さんにより三年間大切に育てられ、全国
植樹祭で植えられる苗木となります。

会場内には二十軒もの店や展示等のテ
ントが立ち並び、長野県内の「アルク
マ」を筆頭に「ゆるキャラ」たちも大集
結。シカ肉料理(ジビエ)の提供や、地
元佐久の特産品販売、木工体験コーナー
などが家族連れで賑わう中、カラマツの
新たな木材利用形態である「チップポイ
ラー」も展示されており、多くの参加者
の目を引いていました。



植樹祭参加者

東濃署に感謝の意をこめ

地域団体が桜植樹

「東濃署」五月十六日、東濃森林管理署
が長年地域振興に寄与したなどとして庁
舎前駐車場へ桜苗木二十本の植樹を地域
団体の方々に行っていたいただきました。

この記念植樹は、中津川市付知町の
様々な団体等で結成している、付知町ま

ちづくり協議会、付知町優良材生産研究会、名古屋林業土木協会付知支部が発起人となり、当署が現庁舎を新築し十年となること及び国有林材の木曾ヒノキが供給されている第六十二回伊勢神宮式年遷宮が行われることを記念し計画されたものです。

当日は、天気にも恵まれ、二十名ほどで手際よく植樹することができ、今後の開花を楽しみにしています。

また、本年十一月二日には付知町まちづくり協議会等から中部森林管理局長、東濃森林管理署長への感謝状贈呈式も計画されています。

当署としても感謝の意をあらわすために同贈呈式にあわせて、木材をふんだんに使った署庁舎の見学や今回の植樹箇所へ中津川市の市の木である「こうやまき」の植樹を計画し、また、NPOつけち等が主催し国有林内を歩く「ハツラツウオーキング」への協力も行う予定としています。



桜植樹作業

「遊々の森」で植樹体験

【中信署】平成二十五年五月十七日、松本市本郷小学校が、中信森林管理署管内の御殿山国有林二五一林班において、植樹作業を行いました。

作業地は平成十四年に発生した森林火災跡地で、翌年十五年に同小学校と「遊々の森」の協定を締結した地区の中、同小学校では、この山を「どすこい山」と呼び総合学習のフィールドとして植樹などの活動を続けてきました。

今回の植樹は、昨年の七月にこの「遊々の森」九・七五ヘクタールのうち、〇・〇六ヘクタールが再び火災に見舞われ森が焼失したことから、緑の再生を願った計画されたものです。



展望台での児童

当日は快晴に恵まれ、児童たちは、小学校から二キロに及ぶ林内の歩道を息を切らしながら登りきり、到着した展望台では北アルプスの雄姿に歓声をあげていました。

植樹時間になると気温も二十五度を超え、なれない鍬を振り上げる児童たちの額には、大粒の汗が光っていました。当署の職員の指導の下、コナラのコンテナ苗をぎこちない手つきで植えています。



植樹作業の様子

植栽本数は百五十本という小規模な植樹体験でしたが、児童たちは口々に「自分の植えた木が立派に育ってほしい」、「山火事の前のような山になってほしい」と今回の植樹活動の感想を述べていました。

コンテナ苗植付箇所の 現地見学会を開催

【南木曾支署】五月二十七日（月）、阿寺国有林においてコンテナ苗植付箇所の現地見学会を開催しました。

この見学会は、森林・林業の再生に向けた課題の一つである林業経営コストの縮減に向けて「植栽時期を選ばない」、「植栽が簡単」、「持ち運びが容易」、「活着が容易」等の特徴を有し、地拵や下刈りの省力化が期待できるコンテナ苗を実際に「見て」、「触って」、「植えて」を体験し、その普及等を図ることを目的に開催したものであり、木曾郡内の地方公共団体や林業事業者等から約五十名の参加がありました。



見学会会場の様子

当日は、局森林整備課造林係長からコンテナ苗の特徴やその特徴を活かした伐採と造林の一環作業システム等についての紹介、南木曾支署森林整備官から植栽方法の説明をした後、二人一組で実際にコンテナ苗の植栽を体験しました。

参加者からは「植えやすい」、「扱いや



植栽実演の様子

すい」等の感想がありました。

また、以前にコンテナ苗の植栽を実施した林業事業体からコンテナ苗の利点と欠点、植栽に当たって苦労した点等についての話もあり、今後の課題等について参加者間で意見交換を行うなど有意義な見学会となりました。

今回見学会を行った場所は、今年度請負事業により八千七百本のヒノキを植栽することとしており、その内コンテナ苗を二千九百本植栽することとしています。

植栽後に、①裸苗を植栽した箇所、②コンテナ苗を植栽した箇所、③コンテナ苗を植栽後下刈等を省略する箇所の三つの条件の違う試験地を設け、それぞれ活着率、成長状況等について継続的な調査を行うこととしています。調査内容等については逐次中部森林管理局のHPで公表するなど、コンテナ苗の普及に取り組んでいくこととしています。

国有林ゴミゼロ運動を実施

「各署等」五月三十日のゴミゼロ運動に併せ、「国有林ゴミゼロ運動」を各森林管理署等において、一般観光客等の入り込みが多い自然休養林などの周辺の林道、歩道等を主として、関係市町村、関係団体のご協力も得て実施しました。

当日は天候が優れない中でしたが、関係市町村等三百五十七名、職員二百四名、延べ五百六十一名の参加がありました。

ゴミの集積量はゴミ袋二十袋及び軽トラ十一台分のゴミを片づけることができました。

今後とも、国民の皆様が森林にふれあう場の環境を整えらるとともに、不法投棄防止等の啓発活動を進めてまいります。



参加の面々(東信署)

マスコミ関係者が国有林を視察

「広報」六月四日、入梅したにもかかわらず絶好の晴れの下、金曜会（長野県内マスコミ各社の報道責任者の会）に対する国有林視察会を実施しました。

中部森林管理局の取り組みを紹介するため恒例となっている視察会ですが、今回は木曾森林管理署管内の上松町小川入国有林を視察箇所とし、マスコミ各社から四名が参加されました。

はじめに、ヒノキ高齢級人工林と御杣始跡地の視察を行い、木曾署の高嶋署長、櫻井総括森林整備官から、長伐期複層林施業や伝統文化への貢献等について説明を行いました。

午後は、赤沢自然休養林内の視察を行いました。

参加者からは「国有林の果たしている役割について理解を深めることができました。」との言葉をいただきました。最後



ゴミの集積(飛騨署)

に、局長から「現在、局署を挙げて森林・林業の再生に向けた取り組みを行っていることから、ご支援ご協力をいただきたい。」との要請をして視察会を終えました。



人工林施業地の様子

一般会計移行に伴う

林野庁キャラバン

「企画調整課」五月十七日、森林管理局において一般会計移行に伴う林野庁キャラバンが開催され、林野庁から経営企画課長、国有林野総合利用推進室長、経営企画課企画係長が来局され、局からは局長をはじめ各署長等が出席する中で、一般会計移行後の円滑な業務運営等に関する打合せが行われました。

会議では、奥田経営企画課長から一般



会場の様子

会計化に当たり、地域の森林・林業の発展に向けた、地域ニーズ把握や課題解決のために積極的に提案・実行し、実行結果をPRすることや綱紀粛正等について訓示がありました。

引き続き、石原国有林野総合利用推進室長から、①平成二十五年度国有林野事業主要取組事項、②平成二十六年年度予算要求を巡る情勢等について説明があり、長谷川企画係長からは、①木材利用ポイント事業、②森林・山村の多面的機能発揮対策等について説明がありました。また、局からは、職員の意識向上に向けた局・署の取組状況等が報告され、各署等からは平成二十五年度の重点取組事項が報告され、会議を終了しました。



「中信署鹿島森林事務所」

上島弘幸 首席森林官

鹿島森林事務所は、四月からの一般会計化に伴い、管轄区域が大町市全域の国有林を管理することになりました。中部山岳国立公園の稜線で五龍岳から槍ヶ岳までの約二万九千九百五十八メートルで中信森林管理署の国有林面積の約三割に相当します。当事務所は、人工林が約三パーセントしかなく、無立木地等が約三十パーセントを占め、七割近くが中部山岳国立公園であり、年間百万人近くの観光客が訪れる、黒部ダムの長野県側の玄関口となっています。特に今年は黒部



森林整備箇所と鹿島槍ヶ岳

ダム完成五十周年ということで様々なイベントが予定されています。ちなみに来年度はトローリーバスが五十周年を迎えます。

また、高瀬川流域森林整備推進協定を平成十九年三月二十九日から四年締結し、国有林・民有林が一体となった間伐等の森林整備を行ってきましたが、関係者と協議の結果、その後五年延長して森林の整備を行っていくこととしています。

さらに四月から管轄することとなった高瀬川国有林には、高瀬川上流の河川の中に、白色をした成層火山型の噴湯丘が立っています。これは、噴湯孔から流れ落ちる熱湯が途中で溶存している炭酸カルシウムとイオウを沈積して作り出したもので、現在熱湯を噴出して形成過程にあるもののほか、すでに噴湯を停止したものもあります。

この噴湯丘の最大のものは高さ十二メートル、噴湯口直径一・八メートルにも及びます。噴湯孔の中には球状方解石(俗にあられ石という)が産出されますが、この主成分は噴湯丘と同じ炭酸カルシウムで、大きいものは直径一メートルほどの球形をなしており、小さいものは一〜二ミリメートルで魚卵状です。また、噴湯丘や噴出箇所は湯俣川の洪水のためしばしば破壊されたり流されてしまいうなど大きく変化します。

この湯俣温泉噴湯丘は大正十一年十月

十二日国の天然記念物に指定され、今もなお噴湯を続けており貴重です。少し遠いですが、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



噴湯丘

人のういき

中部森林管理局人事

六月一日付

▽岐阜森林管理署地域技術官(岐阜署付) 菅野 紀子

行事・会議等の予定

◎国有林観光施設協議会総会

7月2日 長野市

◎高山植物等保護対策協議会

7月12日 中部局



南木曽ろくろ細工

長野県木曽郡南木曽町は、木曽谷の南端に位置する町です。険しい山々に囲まれた地形にも拘わらず古来から交通の要衝であり、中山道木曽十一宿の一つ妻籠宿があることでも知られています。南木曽ろくろ細工は、こうした歴史背景のもとに、いくつもの時代を経て町の伝統工芸品としてその技術が受け継がれ、経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」ともなっています。

ろくろ細工は、厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削



手技を尽くし、材の良さを活かした品々は全国に知られ、白木の盆や椀を造って名古屋や大阪方面に取り引きされていきました。やがて「トクサ磨き」や「漆拭き」といった仕上げ加工を施し、その見事な完成品はさらに知れわたるところとなり、現在のろくろ細工として連綿と受け継がれています。

南木曽のろくろ細工は、木目の美しさ



南木曽ろくろ祭り (手挽ろくろ実演)

り出す伝統技術で、その作業の様子から「挽物（ひきもの）」とも呼ばれています。

南木曽地域では、中山道が多くの旅人で賑わう江戸時代から、木曽谷に育つケヤキ、トチ、センノキ、カツラ、ミズメなど木目の美しい広葉樹をろくろで挽き、木の国ならではの特産として盛んに造られてきました。

また、ろくろ細工に使用する樹木の育成や伝統文化の継承を目的に当南木曽支署管内の南蘭国有林において「南木曽伝統工芸の森」の協定を締結し、下刈や除



木地師の作業風景

が際立っていて、自然の風合いと手触りの優しさが特徴です。おもな製品は茶びつ、茶盆、椀、広ぶたなどの生活道具から、さらには大きな円卓まで、流麗な曲線と艶やかな光沢が独特の優美さをも出ししています。

ろくろを廻して木をくり抜き、丸い形の器を作る職人を「木地師」と呼びます。とりわけ類まれなる経験を積み、技と感性に秀でた木地師は（財）伝統的工芸産業振興協会から「伝統工芸師」に認定され、芸術を究めながら後進の指導にあたっています。

伐作業の実施など将来の伝統工芸品の資材となるよう整備活動を進めています。



南木曽伝統工芸の森 整備の様子

◆所在地

長野県木曽郡南木曽町吾妻漆畑
「木地師の里」

◆アクセス方法

「公共交通機関」
J R 中央本線南木曽駅下車
町地域バス「保神線」約三十分
「自家用車」

◆お問い合わせ

中央自動車道中津川 I C ～ 国道十九号・国道二百五十六号経由で約一時間
南木曽町観光協会
電話番号 〇二六四―五七―二〇〇一